

研究題目 思いや考えを交流し、互いに高め合う児童の育成
－身近な環境を調査して、自分に何ができるのか考える－

研究要項

1 研究のねらい

本校では、これまでにESDの取組をしてきており、今年で4年目となる。ESDとは、「持続可能な発展のための教育」と訳され、「持続可能な社会の担い手を育む教育」と言える。

1年目は、「かかわる」「つたえる」「つながる」をキーワードに地域の人材や教材に目を向け、一年間の総合的な学習の時間を見通したESDカレンダーや総合的な学習の時間の年間指導計画が作られ、活動全体の柱が作られた。2年目は、話し合い活動の方法に着目し、シンキングツール等を用いて、一人ひとりの意見を大切に、児童が進んで取り組めるようにした。そして、3年目は、取組の在り方だけでなく、児童の情意面にも注目した。ESDの取組の要所に地域教材を用いて、思いやりや郷土愛を主題とした道徳の授業を取り入れ、道徳的心情を高めるようにした。

平成26年度末のアンケートの「甚目寺の現在や未来のために何か考えたり、行動したりしたいと思いませんか」という質問に「思う」と答えたのは、全校児童の約40%であり、これは前年度に比べ8%増加している。このことから、話し合い活動の方法の改善や道徳の授業との連携が効果を挙げていることがわかる。

また3年目の実践では、ESDの取組の軸となるのがそのテーマに関わる「人の思い」であることがわかってきた。地域の場所やそこにある物だけに着目するのではなく、地域に関わる人々の思いを、道徳の授業で確認できたことが学習全体への意欲につながり、アンケート結果にも結びついたものと考えられる。

本年度は、その点に注目し、話し合い活動の方法を再度検討することにした。学習当初、テーマ自体に興味をもっていても、そのテーマに関わっている人達の思いまで目を向けられる児童は多くはない。これまで、話し合い活動で出された意見は、シンキングツール等を用いて整理され、学級全体で確認し合う形が多かったが、せっかく人の思いに注目した児童がいたとしても、その意見に注目し、さらに思いや考えを交流し合って、全員で深め合い、共有し合うことはあまりなかった。

そこで、出された意見をもう一度別の視点で見たり、ある項目だけ焦点化して取り上げたりして、さらに思いや考えを交流し合う場面を設ければ、一つひとつの意見の内側に隠された人の思いや、次の課題への手がかりに気付くことができるのではないかと考えた。そして今回の研究では、そのように児童が新しい価値観や見方を再発見し合う場面を「高め合い」の場面として設定することにした。高め合いの場面で、人の思いの部分に気付く児童や新たな課題に気付く児童がいれば、その考えを取り上げ、全体で価値を深め合い、共有し合うことで、次の課題解決に向けての活動のきっかけが生まれるはずである。このように児童一人ひとりの思いや考えをしっかりとおさえながら課題解決を進めていくことで、児童一人ひとりが自信をもち、自分にも何かができるという思いが湧いてくるのではないかと考えた。

本校の4年生は、「環境」をテーマとしてESDの取組を行っている。環境というテーマは、自然環境や社会環境など、自然、水、ゴミ、電気など、いくつかのテーマに広く分かれるが、それぞれのテーマを地域や家庭の環境問題と結びつけ、ふるさと甚目寺との関連をより強くし、環境という言葉が児童の身近に感じられるように指導計画全体の見直しを行う。

4月に行われたアンケートによれば、環境という言葉は見聞きしたことがあり、興味があるものの、自分たちがどのように関わられるのかまではわかっていない。児童には身近な環境調査をしていく中で、環境問題に関わる人たちがどのような思いで問題に取り組んでいるのか、未来に何を願い、伝えようとしているのかに目を向けさせたい。そして、自分も地域の環境を守る主役の一人であり、地域と自分とがつながっていることを感じさせ、将来の地域のためによりよい行動ができるようにさせたい。

2 研究仮説と方法

(1) 研究仮説

第4学年の目指す児童像を掲げ、目指す児童像にせまる研究仮説を設定した。

目指す児童像

- I 身の回りの環境問題に興味関心をもち、すすんでかかわる児童
- II 人の気持ちや思いに気づき、地域の将来のためによりよく行動できる児童



第4学年 ESD のねらい

- 自分の身近な環境や、町の環境に関心を持ち、関わろうとする。
- 自然や環境、人がつながっていることを知り、環境に対して自分なりの課題を見付け活動する。
- 他者の気持ちや考えを尊重することの大切さに気づき、自分の考えを伝える。
- 地域の人々との関わりを考え、自分の生活を工夫していく。



道徳教育目標

- ・ 自他の生命を尊重し、心身共に健康で、何事も最後までやりぬく
- ・ 心豊かで礼儀正しく、きまり正しい生活ができる。
- ・ やさしく思いやりのある心を持ち、社会の一員としての自覚ある行動がとれる。

研究仮説

仮説Ⅰ 話し合い活動の後に高め合いの場面を設定し、出し合われた意見をさらに様々な角度から見直し、思いや考えを意見交流することで、新しい価値観や見方を再発見し、人の思いや新たな課題に迫ることができるだろう。

仮説Ⅱ 地域に根ざした環境問題を調査し、それに関わる人たちの思いや願いに気付かせることで、自分達一人ひとりが地域の環境を守る主役であることに気づき、地域の将来のためによりよい行動しようとするであろう。

(2) 研究の方法

仮説Ⅰ に対しての手立て

- 手立て① 授業内で互いの思いや考えを交流し、高め合う場面を設定する。また、意見交流が円滑に行われるように話し合いの仕方を工夫する。
- 手立て② 思いや考えを視覚化して共有し合いやすくするためにシンキングツールを用いる。また意見の見直しを行うために、シンキングツールの使い方を改善する。

仮説Ⅱ に対しての手立て

- 手立て③ 児童が身近な環境問題を調査し、問題に対して何ができるかを考えられるように、年間の指導計画を見直す。
- 手立て④ 環境問題について詳しく知るために、地域の環境問題を取り扱った調べ学習や出前授業などを行う。また、道徳の時間やインタビュー活動を用いて、講師の方や家族の環境問題に対する思いに気付かせられるよう単元構成をする。

3 8月までの研究実践計画

(1) 総合的な学習の時間、道徳の研究授業

- ・ 身近な環境問題についての学習や出前講座などをきっかけに、児童同士の思いや考えを高め合わせる授業を行う。
- ・ 思いやりや自然愛をテーマとした道徳の授業を行い、仲間どうしで思いや考えを共有し合わせる。

(2) 地域に根ざした環境教育学習

- ・ 五条川工場見学、出前講座等
あま市内にあるゴミ処理場の見学をしたり、学校のビオトープをテーマとした出前授業を行ったりする。
- ・ 生き物マップの作成
学校や地域の動植物を観察カードに記し、身近に生息する生き物のマップを作成する。

(3) 総合的な学習の時間の年間指導計画や ESD カレンダーの見直しと調査計画、行動計画の作成

- ・ 総合的な学習の時間の年間指導計画や ESD カレンダーの見直し
第4学年の総合的な学習の時間の年間指導計画及び ESD カレンダーについて見直し、より地域に関連した環境問題に取り組めるようにする。
- ・ 調査計画、行動計画の作成
身近な環境問題を学習していく中で、興味をもった環境問題に調査させる。調査の際、「人の思い」にも着目させる。

(年度末に向けて:調査結果から、何が分かり、自分達にどのような行動ができるのかを考えさせる。)

年間計画 (略)			
4月～6月	動機付け・調査準備	11月	発表
	7・8月 調査	12月	行動計画
	9・10月 調査報告・発表準備	1・2月	行動
		3月	まとめ